

第39回公開講演会のご案内 「産業発展と社会変動」

主催：日本技術士会近畿支部 繊維部会

共催：日本技術士会近畿支部

日本繊維技術士センター、日本染色加工同業会

日時：2011年7月22日(金) 13:30～16:30

場所：大阪科学技術センター 403号室

(大阪市西区靱本町1-8-4 地下鉄四つ橋線 本町下車)

演題および講師

《演題》「産業発展と社会変動」

《講師》大阪大学大学院経済学研究科教授 阿部武司(あべ・たけし)先生。

＜略歴＞1952年東京生まれ。東京大学経済学部卒、同大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。東京大学社会科学研究所助手、筑波大学社会科学系講師、大阪大学経済学部助教授・教授、ロンドン大学アジア・アフリカ学院客員研究員等を経て1998年より大阪大学大学院経済学研究科教授。専門は近代日本の経済史・経営史。主要著書は『日本における産地綿織物業の展開』(東京大学出版会)、『近代大阪経済史』(大阪大学出版会)など。現在、経営史学会会長、社会経済史学会常任理事、放送大学講師(ラジオ「日本経済史」担当)及び放送大学大阪学習センター客員教授を兼任。

《要旨》

経済の発展は様々な産業の展開によってもたらされるが、機械を備えた大規模な製造業の登場が、工業化の開始(いわゆる産業革命)であった。それ以後、とくに重化学工業を中心とする第二次産業革命を経て工業化は深化していくが、その過程で前工業化期には見られなかった貧困問題、労働問題、環境問題などが生じて社会は大きく変貌し、脱工業化の中でそれはさらに変わっていく。講演では日本を主な素材として、産業の発展と社会の変化について考察する。対象とする時期は第二次世界大戦後、20世紀末までの50数年間である。その間にはコンピュータ、原子力、生命科学をはじめ多数の産業がめざましい発展を遂げ、人々の生活はまことに快適なものになっていったが、その反面で多数の仕事が不要になって職を脅かされる人が増え、また最近の原発事故にみられるように生命の危険に関わる災害も起こるようになった。人間が、産業発展の成果を享受するだけでなく、その代償にも常に気配りをしなければいけない時代は今回考察する時期に本格的に始まったといえよう。

CPD区分A、課題6、時間3.0です

参加申込書

第39回CPD(一般共通課題)講演会 参加申込書		
7月22日(金) 13:30~16:30		
○参加する ○資料のみ請求 (チェック下さい)	申し込み期限 7月15日	[参加費] 主催および共催会員 2,000円 上記以外 3,000円 *参加費は当日会場でお願いします
氏名	(姓のフリガナ)	
所属(会員区分)	(現役勤務の方は社名をお願い)	
ご連絡先の TEL	(資料の送付先はこの欄にご記入ください)	
<p>・お申し込みは FAX で 日本繊維技術士センター(JTCC) 事務所 〒564-0062 吹田市垂水町 3-7-18 (P&Mビル2F)</p> <p>・お問い合わせは電話でお願いします TEL 06-6339-1237 FAX 06-6339-0337</p>		

この用紙を FAX して下さい

資料請求、および参加申し込み後欠席の場合は、資料受け取り後参加費同額をご入金下さい。

振込先 : 郵便貯金総合口座 (名義) 一般社団法人 日本繊維技術士センター

(記号) 14060 (番号) 23829211